



住みやすい健康な地域を目ざして

馬 照哲さん(中国出身)
金洋国際サポート株式会社 代表取締役

私は現在、名古屋市北区西味町で、「デイサービス ノア」を運営しています。毎月、延べ200人程の方に利用していただいております。利用者の中には中国にルーツを持つ方もいらっしゃいます。その他にも居宅介護支援事業所として訪問看護リハビリも行っています。

中国で大学を卒業後に留学生として日本に来ました。「私の人生」「なりたい自分」とは何かをいつも思いめぐらす中、社会に役立つ事業を自ら手掛けたいと考えようになりました。中国で西洋医学と東洋医学に精通する医師だった母親の影響もあり、「健康」に関わりが深く、日本の社会で必要とされている「介護」の事業を始めることを決心しました。その起業の

ためには当然、必要な資格の取得、法令の理解、資金の調達など、越えなければならない多くのハードルがありました。自分の頑張りには家族の協力もあって現在に至ります。今ではその母も、長年の経験に基づく豊富な知識や技術を日本の介護の現場で活かしてくれています。

事業所の運営で最も嬉しいと感じるのは、利用者の笑顔に接することです。そのために、陶芸療法や絵葉書の教室、時には講師を招いた催しのほか、中国が発祥の太極拳の指導なども取り入れています。あふれる「笑顔」が「健康」につながっていると思います。地域の社会の一員として、これからも信頼される施設であるように頑張っていきたいです。



▲絵葉書教室。「笑」と「夢」を書いています



名古屋市とトリノ市は2005年5月27日に姉妹都市提携を結びました。15周年記念公式行事を実施しましたのでご紹介します。



名古屋の象徴「シャチ」とトリノの象徴「雄牛」をイメージした姉妹都市提携記念のロゴマークです。

名古屋・トリノ姉妹都市提携15周年記念公式行事 ～5Gを活用したオンライン交流イベント～

姉妹都市提携15周年となった2020年は、新型コロナ感染拡大の影響により、公式訪問団の派遣をはじめトリノ市との主な交流行事を延期。そして迎えた昨年11月5日に、「Nagoya×Torino」グローバル交流 with 5Gプロジェクト」と題し、名古屋商工会議所、トリノ商工会議所との連携のもと、最新のデジタル技術を活用したオンラインセミナーを開催しました。両都市間をオンラインで結んだ音楽の共演や産業用ロボットの遠隔操作による演出で、産業や文化のこれまでにない新たな形による海外交流イベ



▲遠隔ロボットを活用したテープカットの様子

ントとなりました。本イベントの内容や交流の様子はYouTubeで動画を配信していますので、ぜひ視聴ください。

URL (<https://nagoya-torino15th.jp>)のリンクもしくはQRコードから、本イベント特設ウェブサイトにアクセスできます。



▲遠隔コラボレーション演奏の様子

主なプログラム内容

- ◆遠隔ロボットを活用したテープカット
- ◆遠隔コラボレーション演奏
- ◆名古屋学院大学と連携した名古屋市の魅力発信

名古屋姉妹友好都市協会ウェブサイト
URL: <http://nsca.gr.jp/>



名古屋姉妹友好都市協会フェイスブックページ
URL: <https://www.facebook.com/nagoya.sistercities>



「藤前干潟クリーン大作戦」 ～清掃ボランティア活動に参加しました～

名古屋大学大学院国際開発研究科修士課程1年生
章 露彬さん(中国出身)

辛苦了
おつかれさまでした。(中国語)



昨年10月23日、名古屋市港区の藤前干潟で「第35回'21秋の藤前干潟クリーン大作戦」が実施されました。これは、地域のボランティア団体など1,000人超が参加するイベントで、ラムサール条約*の登録湿地である藤前干潟周辺に漂着したゴミの清掃を2004年から行っています。今回、国際留学生会館(以下ISC)から留学生など12名が参加し、市民の方々と共に汗を流しました。参加者のひとり、中国出身の章さんに当日の様子や感想などについて語っていただきました。



▲活動中の様子(中央が章さん)

私は、2020年12月に来日し、昨年3月からISCで生活しています。ISCに入居した理由は、様々な国出身の留学生との親交を深めることにより、自分自身の視野を広げるとともに、地域住民との交流やボランティア活動を通じて、多様な価値観に触れたいと考えたためです。

昨年10月には藤前干潟での清掃活動に参加しました。当日は他の留学生とともに、岩場まで流されてきた弁当の空

箱やペットボトルなどを丁寧に拾い集めました。しかしその数は膨大で、限られた時間内に全てを収集することは不可能でした。それでも皆が協力し合っ、ひとつの目的に向かって活動することができ、環境保護のために微力ながら役に立てたという思いで、充実感を得ました。

清掃活動の後に干潟の美しい光景を眺めながらお弁当を食べ、語らいの時間を持てたことも忘れられない楽しい思い出です。

これからも地域貢献活動に積極的に参加し、自分自身の成長に繋げていきたいと思っています。



▲参加者の記念撮影(後列左端が章さん)

*湿地の保存に関する国際条約。水鳥を食物連鎖の頂点とする湿地の生態系を守る目的で、1971年、イランのラムサールで開催された「湿地及び水鳥の保全のための国際会議」において、本条約が採択された。正式名は「特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約」。



国際留学生会館とは…

NICが2001年から管理・運営している、留学生専用の宿泊施設(名古屋市港区)。居室90室のほか研修室や和室、体育室などを備え、100名の留学生が生活できる。日本文化理解講座の開催や各種相談・情報提供、地域住民との交流などを行っている。

やさしい日本語を使おう!

「やさしい日本語」×「防災」×「カルタ」で楽しく学ぼう!

名古屋青年会議所が主催した「名古屋の国際化を推進する例会～Keep Up Your Dream～」で、NICが「やさしい日本語」のブースを出展しました!

皆さんは、NICの「やさしい日本語 防災カルタ」を知っていますか? このカルタは、大人も子どもも楽しみながら「やさしい日本語」を知ることができ、66語の防災用語について「やさしい日本語」への言い換えを学ぶことができます。また、日本語教室などで学ぶ外国人が、防災について知る教材としても広く活用されています。貸し出しも行っていますので、ぜひお気軽にお問い合わせください。

11月21日に同イベント会場のショッピングパーク「ららぽーと名古屋みなとアクルス」では、ブースを訪れた子どもたちがカルタ遊びに夢中! 親子で「やさしい日本語」を学びました。カルタを通して、みんなが「やさしい日本語」について楽しく知り、使うことで、誰にとっても優しいまちになることを願っています。



▲NIC防災サポーターの玉城エリカさんとカルタで遊ぶ子どもたち



この「防災カルタ」は、NICのやさしい日本語ボランティアが作成しました。他にも、生活に役立つテーマを取り上げ、「やさしい日本語」で情報発信をしています。ぜひ広くご活用ください!

やさしい日本語クイズに挑戦! from 防災カルタ

- ① 給 水 車 → ()
 - ② 停 電 → ()
- やさしい日本語に言い換えてみよう!

やさしい日本語ボランティアによる作成物一覧&カルタ貸し出しに関する問合せについてはこちら▶

